

大学機関別認証評価

自己評価書

平成27年6月

大阪市立大学



# 目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 大学の目的	4
	基準2 教育研究組織	14
	基準3 教員及び教育支援者	38
	基準4 学生の受入	59
	基準5 教育内容及び方法	75
	基準6 学習成果	131
	基準7 施設・設備及び学生支援	151
	基準8 教育の内部質保証システム	200
	基準9 財務基盤及び管理運営	224
	基準10 教育情報等の公表	248



## I 大学の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 大学名 大阪市立大学

(2) 所在地 大阪府大阪市

### (3) 学部等の構成

学部：商学部，経済学部，法学部，文学部，  
理学部，工学部，医学部，生活科学部

研究科：経営学研究科，経済学研究科，  
法学研究科，文学研究科，理学研究科，  
工学研究科，医学研究科，  
生活科学研究科，創造都市研究科，  
看護学研究科

関連施設：学術情報総合センター，  
文化交流センター，  
都市健康・スポーツ研究センター，  
人権問題研究センター，  
大学教育研究センター，  
英語教育開発センター，  
都市研究プラザ，  
新産業創生研究センター，  
情報基盤センター，国際センター，  
地域連携センター，  
人工光合成研究センター，  
健康科学イノベーションセンター，  
都市防災教育研究センター，  
UR Aセンター，複合先端研究機構，  
理学部附属植物園，医学部附属病院，  
医学部附属刀根山結核研究所，  
工作技術センター，証券研究センター，  
大学史資料室，保健管理センター，

### (4) 学生数及び教員数（平成27年5月1日現在）

学生数：学部6,577人，大学院1,748人

専任教員数：715人

助手：0人

### 2 特徴

大阪市立大学は、1880年（明治13年）設立の大阪商業講習所を源流に、1928（昭和3）年創立された大阪市立の大阪商科大学を前身として、1949（昭和24）年、新制の大阪市立大学として発足した公立大学である。発足時は商学部・経済学部・法文学部・理工学・家政学部の5学部であったが、その後、大学院の創設、法文・理工両学部の分離、大阪市立医科大学の編入、学部名の変更、新研究科の設置などあり、現在8学部10研究科を擁する総合大学である。

市立商科大学の発足時に、市長關一は市民の大学としての市立大学に対して、普遍的な大学の理念の追求とともに、国立やその他の大学に類をみない、都市を基盤とし、独自の学問研究を推進し、市民生活の指導機関としての大学をめざすべきことを宣言した。新制大阪市立大学は、この方針を継承し、建学の理念としてきた。

本学は2006（平成18）年に法人化し、公立大学法人大阪市立大学となり、現在第2期[2012（平成24）～2017（平成29）年度]中期目標・中期計画の時期に入っている。第2期の中期計画では重点3戦略として「都市大阪のシンクタンク、『都市科学』分野の教育・研究・社会貢献」「専門性の高い社会人育成」「国際力の強化」を標榜し、進捗しているところである。

本学の教育研究方針は、この大学の歴史に基づき、都市型総合大学として、都市・大阪の伝統と文化を継承するとともに、自由で創造的な教育と研究及び高水準の医療を推進し、地域社会及び国際社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学づくりをめざすというものである。

教育においては、総合大学としての利点をいかした幅広い教養の獲得と、少人数によるきめ細かい教育を重視し、自由と進取の気風を重んじつつ、市民社会の担い手たりうる人材の育成をめざしている。また、社会で活躍するために必要な基礎的能力に加え、外国語でのコミュニケーション能力、異文化理解・活用力を持つグローバル人材の育成をめざしている。

研究においては、普遍的な研究はもとより、本学を特徴づける特色ある研究である理系と文系の垣根を越えた「都市科学」研究に重点をおき、「都市型次世代エネルギー研究（人工光合成研究）」「都市防災研究」「都市の健康科学研究」などを展開し研究の充実を図っている。

## II 目的

### 1 大阪府立大学の理念

大阪府立大学は、優れた人材の育成と真理の探究という大学としての普遍的な使命を果たすとともに、人とその活動が集積する都市を学問創造の場としてとらえ、都市の諸問題に英知を結集して正面から取り組み、その成果を都市と市民に還元することにより、地域社会ひいては国際社会の発展に寄与する、市民の誇りとなる大学をめざす。

また、都市型総合大学として、都市・大阪の伝統と文化を継承するとともに、既成の学問の枠にとらわれない自由で創造的な教育と研究及び高水準の医療を通じ、市民とともに、都市の文化、経済、産業、医療等の諸機能の向上を図り、真の豊かさの実現をめざす。

### 2 大学経営の理念

理事長は、教職員が一体となって大学経営に取り組む体制を構築するとともに、学長として、大学活動の全般にわたって最大の効果を生むためにリーダーシップを発揮する。

### 3 大阪府立大学憲章 [2010 (平成22) 年3月25日策定]

われわれはいま、自然環境の変化や人類社会と文明にかかわる諸問題の発生によって、未来への展望に大きな危機感をいだく時代をむかえている。期待と不安をもってむかえられた21世紀であるが、世界はなおその期待にこたえることができず、不安の増幅を阻止できないでいる。

このようななかで、希望と幸福に満ちた未来の実現をめざして、いまわれわれ人類に課されているのは、それぞれの存在の拠点に立脚し、その拠点が帯びる使命を十全に遂行することである。

大学は人類普遍の真理の探究に基づき、積極的な教育・研究・社会貢献の諸活動によって、日本国民のみならず、世界市民における現在の改善と未来の発展に寄与することをその本来の使命とする。

大学人はこの使命を自覚し、自らの責務として、真摯にして熱意ある姿勢をもってこの諸活動にのぞみ、大学人としての自己の全き実現をめざすとともに、社会に対する責任を正當に果たすことが求められる。

大阪府立大学は、市井の精神に発した、自主独立・自由進取の気風あふれる建学の伝統と、国際的にしてかつ個性的な研究および、高度にしてかつ闊達な教育環境を有する国内有数の大学である。

大阪府立大学は、この卓絶した伝統と現在に誇りを持ち、これに基づく固有の理念と使命を掲げ、あらゆる大学に普遍の理念や使命と調和させ、本憲章を未来に向けての行動指針とする。それは、真善美の価値判断を身につけ、英知と市民的公共性を備えた有為な人材を育成するとともに、基盤研究を重視しつつ、都市に収斂するあらゆる現代的諸問題を、人類普遍の喫緊の課題の一つととらえ、大阪市をはじめとする地域社会と連携しつつ、不断に創造的な思考を重ねていくことによって、その解決に邁進することである。

大阪府立大学は、これまでの基本計画も踏まえ、都市大阪ひいては大阪府に留まらず、日本や世界の未来を中心的に担う次世代のために、また広く知を求め真理を探究する人々のために、学び考え創造する環境を用意し、あらゆる差別から解放された自由な知的探求の場を提供することを責務として、新しい大学像を構築していく。大阪府立大学の全構成員は、大学一般に対する国民の期待、市立大学に対する市民の期待に思いを致し、強い責任感と深い倫理意識、強固な意志をもって、この憲章を奉じ、教育、研究等大学の諸活動に、その存在の意義をかけて取り組むこととする。

この大学の諸活動の展開において、全構成員は社会に対する大学の貢献を実現し、不断に自己を顧みて、諸活動のさらなる発展をめざすよう努めることとする。この憲章は、全構成員が本学の現状に対する認識を共有し、もって如上の活動にのぞむために定めるものである。

### 4 公立大学法人大阪市立大学 第2期中期目標 [2012(平成24)～2017(平成29)年度] 前文

大学は、教育研究活動により、新しい価値を創造し知識基盤社会をけん引する力となることが求められている。

我が国では50パーセントを超える大学進学率と少子化の進展により、いわゆる大学全入時代となる一方で、大学教育の多様化及び自由化が進行する中、大学は、教育研究活動の質を保証し、その改善に向けてたゆまない努力を続けていかなければならない。

また、時代とともに大学が社会に開かれた存在となるにしたいが、大学は、学問の自主性や自律性を尊重しつつ、時代の要請を意識して活動し、そのあらゆる活動を公開し説明する責任を担っている。

大阪市立大学は、我が国で数少ない公立の総合大学として130年余りの歴史と伝統を有しており、「大阪市立大学憲章」の基本的精神を踏まえ、大学の普遍的使命である真理の探究はもとより、都市型総合大学として、都市を学問創造の場と捉え、都市の諸問題に取り組み、特に都市科学分野の研究とシンクタンク機能を充実するなど、大阪の活性化になくてはならない存在として、市民に開かれ、市民が実感できる形で都市や地域に貢献していかなければならない。

また、総合大学の魅力である多様性を強みとして最大限に発揮し、高度の専門性とグローバルで幅広い視野を有し、都市大阪の成長や地域の発展に貢献する多様で有為な人材を育成していかなければならない。

こうした取組を通じて、「国立大学のコピーであってはならない」という建学の精神に改めて立ち返り、大阪市民の気概と活力により支えられてきた伝統を継承して、高度な教育や先進的で卓越した研究を国際的視点で推進することにより、大阪市立大学が、積極的に入学したい大学として選ばれるとともに、都市研究の拠点として大阪市を核とした関西圏の発展や国際化をリードし、市民に愛され市民が誇る大学となることを期待する。

大阪市立大学にあっては、新しい中期目標のもと、大学のプレゼンスをより一層向上させるため、教職員一人ひとりがその責任を負っているとの共通認識に立ち、理事長兼学長のリーダーシップにより、中期目標の達成に向け、取り組むことを望む。

### 5 公立大学法人大阪市立大学 第2期中期計画における重点3戦略

第2期中期計画達成の具体的な実行のため、重点3戦略を以下のとおり定めている。

#### ①「大阪市のシンクタンク、都市科学分野の教育研究」

コンパクトな総合大学という本学の特性を生かし、大阪市に例をみるような大都市が抱える諸課題に専門的観点から総合的に取り組み、また市民のライフスタイルの多様化等により求められる多面的な行政施策の企画を支援するために、文系と理系の垣根を越えた複合的な都市科学研究を推進し、市政への提言等により市政や市民に還元していくシンクタンクとしての役割を強化する。

#### ②「専門性の高い社会人の育成」

地域や社会で活躍する専門性の高い社会人の育成や、国においても求められている「21世紀型市民」、すなわち高い専門性ととも幅広い教養をもつ人材の育成を目標に、総合大学、少人数教育といった本学の特徴を活かして推進する。

#### ③「国際力の強化」

国際社会で活躍する「グローバル人材」の育成が急務とされていることから、外国語教育の強化をはかるとともに、大阪市を核とした関西圏の国際発展のために、現在の海外拠点の活用や大学間交流の活発化により本学の国際研究ネットワークの拠点化をはかる。

### 6 学部・研究科ごとの目的

本学ウェブサイト参照

<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/academics>